

Tidal Enterprise Scheduler : サービスアダプタのメモリの設定

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設定 サービスアダプタ メモリ](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Windows プラットフォームまたは UNIX プラットフォームで動作する Tidal サービスアダプタのメモリ割り当てを設定する方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

この資料に説明があるコンポーネントはさまざまに Tidal な サービスアダプタです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

サービスアダプタ メモリを設定して下さい

デフォルトで、アダプタにメモリのために設定されるこれらの量があります:

アダプタ	最小値 (MB)	最大値 (MB)
Email	16	64
地平線	16	256
MSSQL	16	256
Oracle アプリケーション	16	256
Oracle DB	16	256
ピープルソフト	16	256
SAP	16	512
TA	32	32
Webservice	16	256

メモリを作成され、必要なメモリの量を規定するために設定されるこれらのアダプタ、**service.props** ファイル必要の何れかのために調節するため。このファイルでは、これらのパラメータを追加して下さい:

- (xxx MB のメモリ量であるかところ) `JvmMinMemory=xxx`
- (xxx MB のメモリ量であるかところ) `JvmMaxMemory=xxx`

注: これらのパラメータは大文字/小文字の区別があります。

service.props ファイルはで見つけられる必要があります:

`${TIDAL_HOME}/services{service GUID}/config directory)`

設定ディレクトリはデフォルトで存在しませんそれとして作成される必要があります。異なるサービス GUID フォルダは次のとおりです:

- [Email]: Scheduler\master\services\{65C600D1-4316-41bd-8ED0-AB8E5F470838}
- 地平線: Scheduler\master\services\{84E41389-A7FA-4834-9A63-3808C7B7D799}
- MSSQL: Scheduler\master\services\{CAFA6E81-E29F-4263-8E80-4928FFF416A2}
- Oracle アプリケーション: Scheduler\master\services\{DB7FB8C2-96AF-4790-9512-AFC8ECFE784D}
- Oracle DB: Scheduler\master\services\{3EC69AA3-C8C3-4a19-8F66-F36CFDDA5BB1}
- ピープルソフト: Scheduler\master\services\{B20EC120-2EB5-4d5f-8133-73FA37225667}
- SAP: Scheduler\master\services\{51C57049-3215-44b7-ABE1-C012FF786010}
- TA: Scheduler\master\services\{A2277702-9011-49e9-991D-F2E7E7055C0E}
- Webservice: Scheduler\master\services\{2C290052-71BA-47BC-85BB-D65E06459001}

関連情報

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)